

平成28年度専門家派遣事例

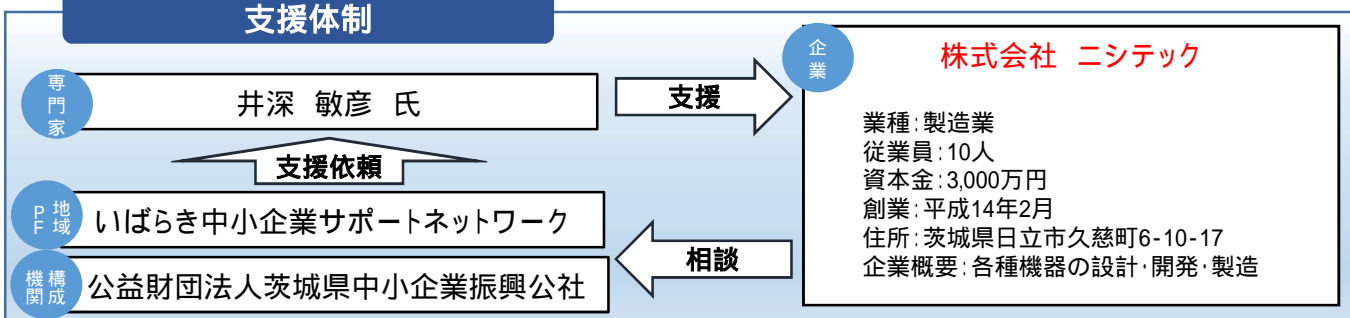
支援課題：知的資産経営

平成29年2月

目次

都道府県	支援元機関名		ページ
	企業名	支援テーマ	
茨城県	いばらき中小企業サポートネットワーク / 公益財団法人茨城県中小企業振興公社		1
	株式会社 ニシテック	知的資産経営報告書作成による経営方針の明確化支援	
京都府	京都府商工会地域中小企業支援プラットフォーム / 福知山市商工会		2
	田中製紙工業所	手漉き和紙製造企業の価値の再発見と新販路開発支援	

支援体制



支援概要

支援の経緯

本企業は、先代が地元の大手総合電機メーカーから独立して創業した会社であり、工場を所有せずに製造業としての活動を行うファブレス形態で、国内外から幅広く部品を調達している。独自性の高い経営体制により、創業当初から順調に業績を伸ばしてきたものの、日々、目まぐるしく変化する経営環境に対応していくため、今後の当社の方向性を探っていきたいと、当機関に相談があった。

派遣元機関による経営課題の特定とアプローチ

本企業へのヒアリングにより、今後の進むべき方向性を定めるためには、自社の強みや自社の製品の独自性をはじめ、同業他社との差別化ポイントを「見える化」し、将来の本企業のあるべき姿を明確にする必要があることがわかった。また、社長からは、ただ単に「見える化」するだけにとどまらず、ステークホルダー（新規取引先、金融機関、既存従業員、新規採用者）への説明資料としても活用していきたいとの要望があった。このため、「知的資産経営報告書」の作成を提案したが、高い専門性が求められる分野であるため、県内では数少ない知的資産経営認定士であり、支援実績も豊富な本専門家に依頼した。

専門家による具体的な支援内容

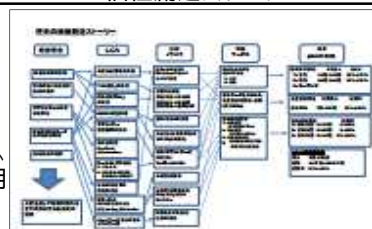
まず初めに、経営課題、企業概要、事業沿革、経営理念を確認するとともに、SWOT分析（企業の強み（Strength）、弱み（Weakness）、機会（Opportunity）、脅威（Threat））による強みの洗い出しを行った。さらに、製品・サービス分析により、知的資産の抽出を行った。これらをもとに、本企業における価値連鎖の検討を行い、知的資産の定量化指標であるKPI（重要業績評価指標）及びKGI（重要目標達成指標）を設定した。加えて、過去・現在・将来の価値創造ストーリーの構築を提案するなど、知的資産経営報告書の作成についてアドバイスを行った。

成果

支援の結果、KPI及びKGIを設定するとともに、自社の価値創造ストーリーを構築することができ、本企業の進むべき方向性が明確になった。さらに、明確になった方向性について、ステークホルダーへの説明資料として活用できる「知的資産経営報告書」も作成することができた。

今後はこの知的資産経営報告書を、協力会社の新規開拓、金融機関へのプレゼンテーション、社員のモチベーション向上並びに技術力を持った人材の新規採用といった場面で積極的に活用し、企業としてさらなる飛躍を図っていく予定である。

価値創造ストーリー



専門家の声

氏名: 井深 敏彦
保有資格: 中小企業診断士
知的資産経営認定士
専門分野: 経営全般
専門家の声:

同社は独自のビジネスモデルを構築し、業績を伸ばしている。今回の支援で、同社の強みを把握し、事業の方向性を明確にすることができた。



事業者の声

井深先生をご紹介頂き、これまで漠然と考えていた自社の強み・弱みを明確にすることができた。そのうえで、種々の分析を行って頂き、弊社の知的資産といえるものを抽出して頂きました。

弊社にとっては第二創成期とも言えるこの時期に、非常に的を得たアドバイスを頂けたことは、大きな財産になったと思います。今後、新しい事務所への引っ越し等、業務拡大へ向けて積極的に取り組んで参りますが、それらに向けた指針を頂けたことに、心から感謝申し上げます。

専門家プロフィールURL（プロフィールをご覧いただくにはミラサポへのログインが必要です。）

<https://specialist.mirasapo.jp/consul/pro/003100000SIwm2AAB>

支援体制

専門家

山本 容子 氏

支援

企業

田中製紙工業所

支援依頼

地域
P.F.京都府商工会地域中小企業支援
プラットフォーム

相談

機関
構成

福知山市商工会

業種：製造業
従業員：2人
資本金：- (万円)
創業：万延元年
住所：京都府福知山市大江町二俣1321
企業概要：楮(こうぞ)栽培、和紙製造

支援概要

支援の経緯

本企業は、万延元年から5代に渡り手漉き和紙製造という伝統産業を守り続けてきた老舗企業である。しかし、現在は洋紙が広く普及していることに加え、海外で生産された楮(こうぞ)を原料に、機械で大量製造された和紙の普及により、手漉き和紙の売上は伸び悩んでいた。一方で、本企業は、京都が「和紙の里」として認知され、人が来る仕組みを創りたいとの思いを抱くとともに、本企業で製造する京都御所の修復にも使われた修復紙や雲龍紙の販路を拡大したいとの思いを抱いていた。そこで、長年育まれた地域の伝統工芸の復興と新たな和紙の用途を探ろうと、当機関からも支援を提案しており、本件は当機関の相談案件となった。

派遣元機関による経営課題の特定とアプローチ

本企業へヒアリングしたところ、事業主は手漉き和紙という伝統産業を守り続けるということに注力する一方、自社製品の新たなターゲットの開拓に力を入れていないことがわかった。また、日本各地に和紙産地は存在するが、それぞれの和紙には特徴があり、全て手作業で丁寧に漉き込む本企業の手漉き和紙は、繊維が密で他の和紙に比べ硬く、且つサイズも小さいことから、差別化を図るに十分な特徴を持っていると判断した。そこで、販売ターゲットの明確化及び経営プランの明確化について数多くの支援実績をもつ本専門家を派遣することで課題の解決にあたった。

専門家による具体的な支援内容

まず、事業者からヒアリングを行い、創業から現在までの経営状況を時代ごとに振り返り、和紙の販売状況の推移及び和紙を取り巻く環境の推移を確認した。その結果、海外の美術館、日本の重要文化財の修復、老舗店の壁紙への和紙の提供実績という本企業の強みが再確認された。また、原料である楮(こうぞ)の生産から手漉きの和紙製造を一貫して行っている企業は日本全国でも希少であることから、販売価格を見直し、付加価値を考慮した価格設定を行うよう助言した。あわせて、建築分野において、和紙はシックハウス症候群がでない壁紙として活用できることを提案し、連携可能な建築関連企業を紹介することで、販路拡大を目指した。

成果

支援を通じて自社の強みを再確認することができるとともに、強みを生かした価格の再設定を行うなど、今後の経営方針を明確にすることができた。また、専門家からシックハウス症候群がでない家造りへの和紙の活用を提案され、塗壁材を開発している工務店を紹介されたことで、建築分野に販路を広げることができ、和紙の新たな価値が創造された。さらに、本企業の強みである、様々な用途に応じた紙漉きの高い技術により紙として和紙を使用するだけでなく、修復分野や、高級洋菓子店の包装紙など和紙が活用される分野が拡大しており、京都の伝統産業としての認知が高まってきている。



楮(こうぞ)栽培からの和紙づくり

専門家の声

氏名：山本 容子

保有資格：

専門分野：知恵の経営・経営革新

専門家の声：田中様は素晴らしい技術

を持ちです。しかし伝統の枠組みで「文化財」として守られては、限られた市場に留まったままです。今回の連携はあくまでも一つのステップ。新たな市場への挑戦は決して難しいことではありません。需要を開拓し、再び当地の産業となるように、挑戦を続けていただきたいと思います。



事業者の声

専門家の先生にお話をきいていただくことで自社の強みと弱みを認識することができ、整理することができて良かった。この指導を生かし、知恵の経営報告書作成をすすめていきたい。

専門家プロフィールURL (プロフィールをご覧いただくにはミラサポへのログインが必要です。)

<https://specialist.mirasapo.jp/consul/pro/003100000ajCFNA2>